

JIFAS NEWS



Japan international Food and Aquaculture Society

〒302-0131

茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001

TEL:080-5084-6541

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

世界の最新技術

各国で柔軟な発想実現

卵型や船型いけす

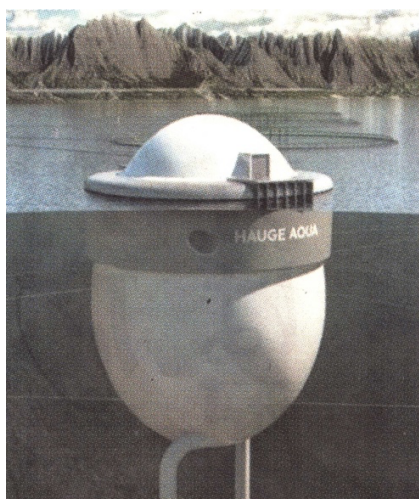
水産物の増産に資する養殖の場を求めて各国は技術でのびのびを削る。

ノルウェーではハウゲアクア社の卵型養殖いけす、その名も「ジ・エッグ」が始動。

洋上に卵型の閉鎖空間を設置し、内部のいけすで養殖する。ノルドラスク社の船型のいけす「ハブファーム」など、柔軟な発想を実現する技術に目を見張る。

陸の面積が限られるシンガポールではエース社がバージ船内の陸上養殖システムを運用する。

中国では国策で大規模いけすで増産する「海洋牧場」を推進。



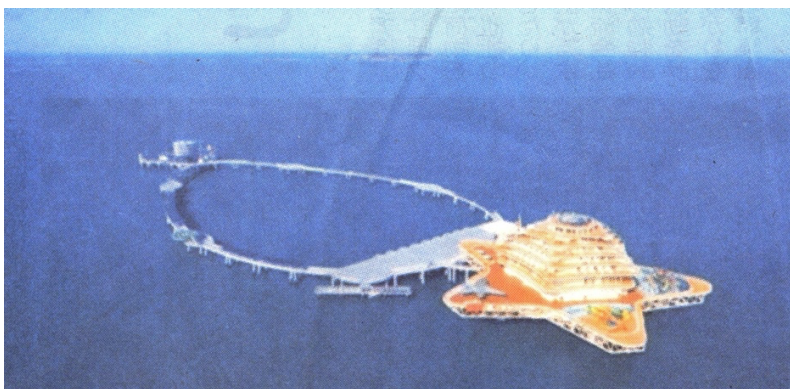
卵形いけす「ジ・エッグ」

観光施設が付属する巨大いけす「耕海1号」や10万トンの世界最大の閉鎖循環式養殖船「国信1号」が稼働する他、低水温の海水層「黄海冷水団」を活用してアトランを養殖する「深藍1号」で3期目に入った。

日本では弓ヶ浜水産（ニッスイグループ、鳥取県境港市）がギンザケ、黒瀬水産（同、宮崎県串間市）や尾鷲物産（三重県尾鷲市）がブリ養殖で大型浮沈式いけすを導入。日本サーモンファーム（青森県深浦町）はトラウトの沖合養殖で国内最大規模の生産を展開する。いずれも自動給餌システムを導入し給餌の効率化と最適化を図る。日東製網（東京都港区）は衛星での養殖適地探索や最適な漁網の開発など新規の養殖事業に注力する。



船型で稼働可能な「ハブファーム」



中国の観光一体型「耕海1号」